

第209回 「元気に百歳」クラブ「道草」(第18回通信句会) 開催

風薫る爽やかな五月と言うのが定番ですが、残念ながら今年は曇天が続き、湿りがちな5月となりました。そんな中で、私たちの通信句会は、決められた日限は守られ、投句から選句に至るまで滞りなく各ステップを熟し、本間傘吉さんに記録をまとめていただきまして無事終了しました。本間さん、いつも有難うございます。

5月の通信句会に参加されたのは、下述の17名です。そして提示されていた兼題は下述の通りです。順を追って併記致します。

◎ 今月ご参加いただいた方々。

芦川創風さん、板倉歌多音さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、
金田月草さん、君塚明峰さん、木村栄女さん、高瀬荻女さん、辻柴漣さん、
手嶋錦流さん、中島憧岳さん、原晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、
森田多佳さん、芦尾白然（17名）

◎ 提示された兼題

兼題1「初夏」、兼題2「鮎」、兼題3「当季雜詠(=夏=)」。

皆さんのが選句された兼題ごとの優秀句と、天賞句のご披露を下述致しますので、ご高覧下さい。本句会の最近の傾向は、天賞推挙の票が分散しているように見受けられます。それだけ句から受け取る感動のポイントが分散しているということでしょうか。ただ、最多得票賞（☆印）句は、比較的少ない句に集中しております。こうした傾向をどのように受け止めればよいのでしょうか。

兼題1. 「初夏」

- | | | |
|---------------------|-----|------|
| ◎『古都ひとり漫ろ歩けば初夏の風』 | 傘吉 | 天2☆7 |
| ◎『初夏の木洩れ日レース編みのごと』 | 歌多音 | 天1 |
| ◎『初夏の背なに夕風博多締め』 | 栄女 | ☆7 |
| ◎『はつなつの街まつさらのスニーカー』 | 荻女 | ☆7 |

兼題2. 「鮎」

- | | | |
|--------------------|----|----|
| ◎『鮎の骨さらりと抜きし女将かな』 | 多佳 | 天1 |
| ◎『鮎跳ねる咄嗟に老いた背も伸びる』 | 傘吉 | 天1 |
| ◎『花ござに焼いて骨酒鮎一尾』 | 創風 | 天1 |
| ◎『若鮎の清楚な姿味も良し』 | 明峰 | 天1 |
| ◎『跳ね鮎や人の世斜めに見ゆるらむ』 | 白然 | 天1 |
| ◎『透き通る水にたゆたふ鮎の群』 | 一光 | ☆9 |

兼題3. 当季雜詠句

- | | | |
|-------------------|----|-------|
| ◎『和菓子屋ののれんに代わる青簾』 | 明峰 | 天2☆11 |
| ◎『椅子を置くところが書斎青葉風』 | 晶如 | 天2 |
| ◎『捨てるには想ひの多き古日傘』 | 多佳 | 天2 |
| ◎『顔洗う水清清し夏来る』 | 創風 | 天1 |
| ◎『青き空ミサイル飛びて麦の秋』 | 清助 | 天1 |
| ◎『いそいそと白玉丸める雨の午後』 | 一光 | 天1 |

兼題1では、傘吉さんの句「古都ひとり漫ろ歩けば初夏の風」が、天賞二つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。古都と言えば奈良もありますが、どうしても京都を想像してしまいます。この句の豊かさは、その京都をそぞろ歩きするという優雅さと、そこに吹い

てくる初夏の爽やかな風との合体です。作者の微笑む顔が見えてくるようですね。次に歌多音さんの句「初夏の木洩れ日レース編みのごと」が、天賞一つを獲得しました。初夏の路上に揺れる木洩れ日は、春とは違ひ光と影がはっきりとしていて、ピアノに掛けられているレース編みの飾りやテーブルセンターを思い起しました。

天賞は付きませんでしたが、栄女さんの句「初夏の背なに夕風博多締め」が、最多得票賞（☆印）を獲得しました。中七の「背なに夕風」の後に展開されていく物語がどうなるのか。下五の「博多締め」という帶の締め方に、秘められた決意はどういうことか。興味を惹く句ですね。もう一句、荻女さんの句「はつなつの街まつさらのスニーカー」が、最高得票賞（☆印）を獲得しました。今年5月は数少ない晴天日でしたが、夏を感じさせる晴天日、まつさらのスニーカーを履いての街歩きです。スッキリ感が句全体に広がり高得票を獲得しました。

兼題2では、多佳さんの句「鮎の骨さらりと抜きし女将かな」が、天賞一つと高得票を獲得しました。この句は鮎料理が名物の料亭風景、お客様の前で嫋やかに動く女将さんの手指、上手に骨を抜く技が見えてくるようです。次に傘吉さんの句「鮎跳ねる咄嗟に老いた背も伸びる」が、天賞一つを獲得しました。この句は天賞推挙のコメントにもありますように、自分にも経験のあるような、クスリと笑い出すような光景ですね。中七、下五の「咄嗟に老いた背も伸びる」が、選者の共感を獲得しました。

次に創風さんの句「花ござに焼いて骨酒鮎一尾」が、天賞一つを獲得しました。句の舞台には花ござ、骨酒、鮎一尾と、賑やかな主役たちが登場しての活躍が、読者の共感を得たと思われます。次に明峰さんの句「若鮎の清楚な姿味も良し」が、天賞一つを獲得しました。上五、中七で「若鮎の清楚な姿」と、見たままの素直な表現が、評者から好感を持たれたと思われます。次に自然の句「跳ね鮎や人の世斜めに見ゆるらむ」が、天賞一つを獲得しました。選者から「鮎と一緒に斜めから人の世を観る」と、評していただきましたが、人の世の歪みを鮎からは見えるだろうとの思いを込めました。

天賞は付きませんでしたが、一光さんの句「透き通る水にたゆたふ鮎の群」が、最高得票賞（☆印）を獲得しました。透き通った水に映る鮎の気ままに見える動き、数尾の群が右に左に游ぐ姿を「たゆたふ」と表現したことに評者の一票が投ぜられました。

席題3では、明峰さんの句「和菓子屋ののれんに代わる青簾」が、天賞二つと最高得票賞（☆印）を獲得しました。この時期になれば「のれん」を「青簾」に代えて、商売を営む和菓子屋さん、これだけでこの和菓子屋さんが、名物のお菓子を持つ老舗であることが見えて来ます。見事な一句でした。

次に晶如さんの句「椅子を置くところが書斎青葉風」が、天賞二つを獲得しました。椅子を置くところが書斎とは・・・。スッキリとした生活態度が見えて来ます。そして下五に季語の「青葉風」を持ってきて、季語を活かす上五、中七の配置は、見事としか言いようがありません。

次に多佳さんの句「捨てるには想ひの多き古日傘」が、天賞二つを獲得しました。中七の「想ひの多き」が、しっかりと句全体を支え、下五の季語「古日傘」がキッチリと役目を果たしています。この句を読めば誰もが「この傘は古くても捨てられることがない」と理解するでしょう。兼題3のここまで3句は見事です。

次に創風さんの句「顔洗う水清清し夏来る」が、天賞一つを獲得しました。誰が読んでもスッキリと句意が届いてきます。素直な気持ちの表現が、まさに清々しいです。気持ちの表現の純粹さが、選者の共感を獲得したと思います。次に清助さんの句「青き空ミサイル飛びて麦の秋」が、天賞一つを獲得しました。下五の季語「麦の秋」を読めと、脳裡をかすめるのはウクライナです。不条理な戦いを挑まれて対応しているウクライナです。本当に早期の停戦を祈願するものです。次に一光さんの句「いそいそと白玉丸める雨の午後」が、天賞一つを獲得しました。何方か来訪される人がいらっしゃるのでしょうか。きっと

美味しい白玉が出来上るでしょう。雨の日ですが、心温かい一句が出来上りました。

通信句会が続いている私たちの「道草」ですが、有志の会議では、リアル句会の実現について討議がなされています。出来る範囲のリアル句会をまず実現しましょう。楽しみにしています。ではまた来月に紙上でお会いしましょう。皆さんお元気で。

自然記